



コードレスハードカッター

取扱説明書

電動油圧式(オートリターン、マニュアル複動)
全ネジカッター

Model **DW-408B**

目次	頁
保証書 -----	1
一般安全規則 -----	2
A. 仕様・装備 -----	3
B. 各部の名称、寸法 -----	3
C. バッテリーの充電 -----	4
D. 使用方法 -----	4
E. 替刃の交換 -----	6
F. 使用上の注意 -----	7
G. 保守・点検 -----	7



事故防止のため取扱説明書及
び「一般安全規則」を熟知
してから使用ください。

 **亀倉精機株式会社**
KAMEKURA SEIKI CO.,LTD.

Made in Japan

保証書

型式: DW-408B No. _____

※保証期間 1カ年 ※お買上年月日 年 月 日

※需要家様 住所 _____

〒 _____ TEL _____ 芳名 _____ 様

※販売店名、住所 _____

この製品は、厳密なる品質管理及び検査を経てお届けしたものです。

お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合には、当保証書記載内容により無償修理いたします。

(※印欄は必ずご記入ください)

*修理は、お買上げの販売店または弊社に必ず本保証書を提示の上、依頼ください。

*本保証書は、再発行いたしませんので、大切に保存してください。

*本保証書は、日本国内でのみ有効。

 亀倉精機株式会社

〒959-0214 新潟県燕市吉田法花堂 1844-3

TEL : (0256) 92-4774 (代)

FAX : (0256) 92-6197

保証規定

- 保証期間内（お買上げ日より1年間）に正常なご使用状態において故障した場合には、無償修理いたします。
- 次のような場合には、保証期間内でも有償修理になります。
 - 使用上の誤り、あるいは改造や不当な修理による故障または損傷。
 - お買上げ後の落下、あるいは運送による故障又は損傷。
 - 火災、塩害、地震、雷、風水害、その他天災地変などによる故障。
 - 保証書のご提示がない場合。
 - 本保証書のお買上げ日および販売店名の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。

チェック項目	検査者印
油圧機構 電気回路・外観・その他	

 亀倉精機株式会社
KAMEKURA SEIKI CO.,LTD.



本社 〒959-0214 新潟県燕市吉田法花堂 1844-3 TEL (0256)92-4774(代) FAX (0256)92-6197
東京支店 〒142-0063 東京都品川区荏原 2-1-8 TEL (03)3784-8851(代) FAX (03)3784-8856
大阪支店 〒577-0063 大阪府東大阪市川俣 1-8-37 TEL (06)6784-1391(代) FAX (06)6784-1395
名古屋営業所 〒456-0034 名古屋市中区熱田区伝馬 1-11-8 TEL (052)683-7551(代) FAX (052)683-7594
ホームページ <https://www.kamekura.co.jp/>

一般安全規則

警告！弊社の製品（機器）をご使用になる前に、すべての取扱説明書をよくお読みになり、取扱い方法を理解してから正しくお使い下さい。次に示すすべての指示に従わない場合は、感電、火災及び／又は重症を招くおそれがあります。次に示すすべての警告における”電動工具”という用語は電池式（コードレス）電動工具を示します。次の事項を、順守してください。

a) 作業場

1. 作業場は整理整頓（頓）して、十分な照明を行ってください。散らかった暗い場所は事故を招きます。
2. 爆発を誘引することがある可燃性液体、ガス又は粉じんがあるところでは、電動工具は使用してはいけません。電動工具は、粉じん又はヒュームを発火させることがある火花を発生します。
3. 電動工具の使用中は、子供及び第三者を近付けないでください。注意が散漫になって、操作に集中できなくなることがあります。

b) 電氣的安全性

1. 充電器のプラグは、電源コンセントに合ったものでなければなりません。どのような形にせよ、プラグを改造してはなりません。改造していないプラグ及びそれに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクは低減されます。
2. 使用電圧は、必ず指定電圧で使用下さい。
3. 充電器、バッテリーパック、電動工具は、濡れた手で触ったり雨又は湿気がある状態にさらさないでください。電動工具に水が入ると、感電のリスクが増大します。
4. コンセント周辺に水溜りなど感電の原因となる状態が無い事を確認して下さい。

c) 人的安全性

1. 電動工具の使用中は、油断をせず、いま自分が何をしているかに注意し、常識を働かせてください。疲れていたり、アルコール又は医薬品を飲んでいるときは、電動工具を使用してはいけません。電動工具を使用している間の一瞬の不注意で、深刻な人的傷害をもたらすことがあります。
2. 安全保護具を使用します。パンチャー、カッター、ベンダー等の機器を使用する作業には、常時、保護めがね（アイプロテクター）及び安全靴を装着してください。適切な状態で防じんマスク、滑り防止安全靴、ヘルメット又は耳栓などの安全保護具を使用することで、傷害事故が低減されます。
3. 電動工具の電源を入れる前に、棒レンチ又は六角棒スパナを外します。電動工具の可動部分に棒レンチ又は六角棒スパナを付けたままにしておく、人的傷害をもたらすおそれがあります。
4. 無理な姿勢で作業しないこと。常に適切な足場とバランスを維持します。これによって、予期しない状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
5. きちんとした服装で作業します。だぶだぶの衣服や装飾品は身に付けません。髪、服及び手袋を可動部に近付けません。だぶだぶの服、装飾品又は長髪は、可動部に巻き込まれることがあります。
6. 足場の不安定な場所、危険物の近くでの電動工具の使用はしないでください。大きな事故を招く原因になります。

d) 電動工具の使用及び手入れ

1. 電動工具を無理に使用しないこと。用途に合った正しい電動工具を使用すること。電動工具は、より適切、かつ、安全な作業ができます。
2. 電動工具の仕様（能力）以上の作業は、絶対にしないで下さい。電動工具の損傷、あるいは重大な事故発生の原因になります。
3. スイッチで始動及び停止操作のできない場合、その電動工具は使用してはいけません。スイッチで制御できない電動工具は危険であり、修理しなければなりません。
4. 調整を行う前、付属品を交換する前、又は電動工具を保管する前に、正逆転スイッチをロック位置にするかバッテリーパックを取り外して下さい。このような予防的安全手段によって、電動工具を誤って始動させるリスクが軽減されます。
5. 使用しない電動工具は、子供の手の届かないところに保管し、電動工具又はその説明書に不慣れな者には電動工具を使用させてはいけません。電動工具を扱い慣れていない者に渡すと危険です。
6. 電動工具の保守を行ってください。作業を始める際にその都度使用する電動工具を点検し、破損、摩耗、部品欠落、緩み等の異常がある場合は、その電動工具の使用を中止し、修理あるいは純正部品との交換を弊社または販売代理店に依頼して下さい。又、使用中に、異常が発生した場合も同様に処置して下さい。電動工具の保守が不十分であることが、多くの事故の原因となっています。
7. 先端工具は、鋭利、かつ、清潔に保っておきます。先端工具を適切に手入れして鋭利にしておけば、作業の円滑さを失うことなく、操作も容易になります。
8. 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件及び実施する作業を考慮して、それらの説明書に従って特定の電動工具に合うように使用してください。意図された作業と異なる作業に電動工具を使用すると、危険な状況になることがあります。
9. 25°Cでの使用を前提としていますが、時折、35°Cになることも想定しています。
10. 電動工具は、落したり、衝突させたりして、急激なショックや過大な荷重をかけますと変形、亀裂、破損、油漏れ、漏電の原因になります。大切に取扱って下さい。

e) 電池式電動工具の使用及び手入れ

1. バッテリーパックを挿入する前に、スイッチがオフ位置にあることを確認します。スイッチがオン位置にある電動工具にバッテリーパックを差し込むと事故を招きます。
2. 製造業者が指定した充電器だけで再充電します。一つのタイプのバッテリーパックに適した充電器を別のバッテリーパックに用いると、火災のリスクを生じることがあります。
3. 0°Cから40°Cの外気温で充電してください。
4. 使用しないときは充電器の電源プラグをコンセントより抜いておいて下さい。
5. 電池式電動工具を使用中、バッテリーパックの充電中に異常な発熱や異臭等があった場合は、直ちに電動工具の使用または充電を中止してください。
6. 電動工具は、専用に指定されたバッテリーパックだけで用います。別のバッテリーパックを使用すると、人的被害及び火災のリスクを生じることがあります。
7. バッテリーパックを使用しないときは、クリップ、硬貨、かぎ（鍵）、くぎ（釘）、ねじなどの他の金属物、又は一つの端子から別の端子への接続を行うことがあるその他の小さな金属物から離しておきます。電池端子の短絡によって、やけど又は火災を生じることがあります。
8. 過酷な条件のもとでは、バッテリーパックから液体が放出されることがありますが、接触を避けます。偶発的な接触が起こった場合は水で洗い流します。液体が目に入った場合は、医師にも診てもらいます。バッテリーパックから放出された液体は、炎症又はやけどの原因となることがあります。
9. 上記の液もれしたバッテリーパックや充電時間が大幅に伸びたバッテリーパックは使用しないで下さい。
10. バッテリーパック、充電器、モータには落下等の強い衝撃を与えないで下さい。

f) 整備

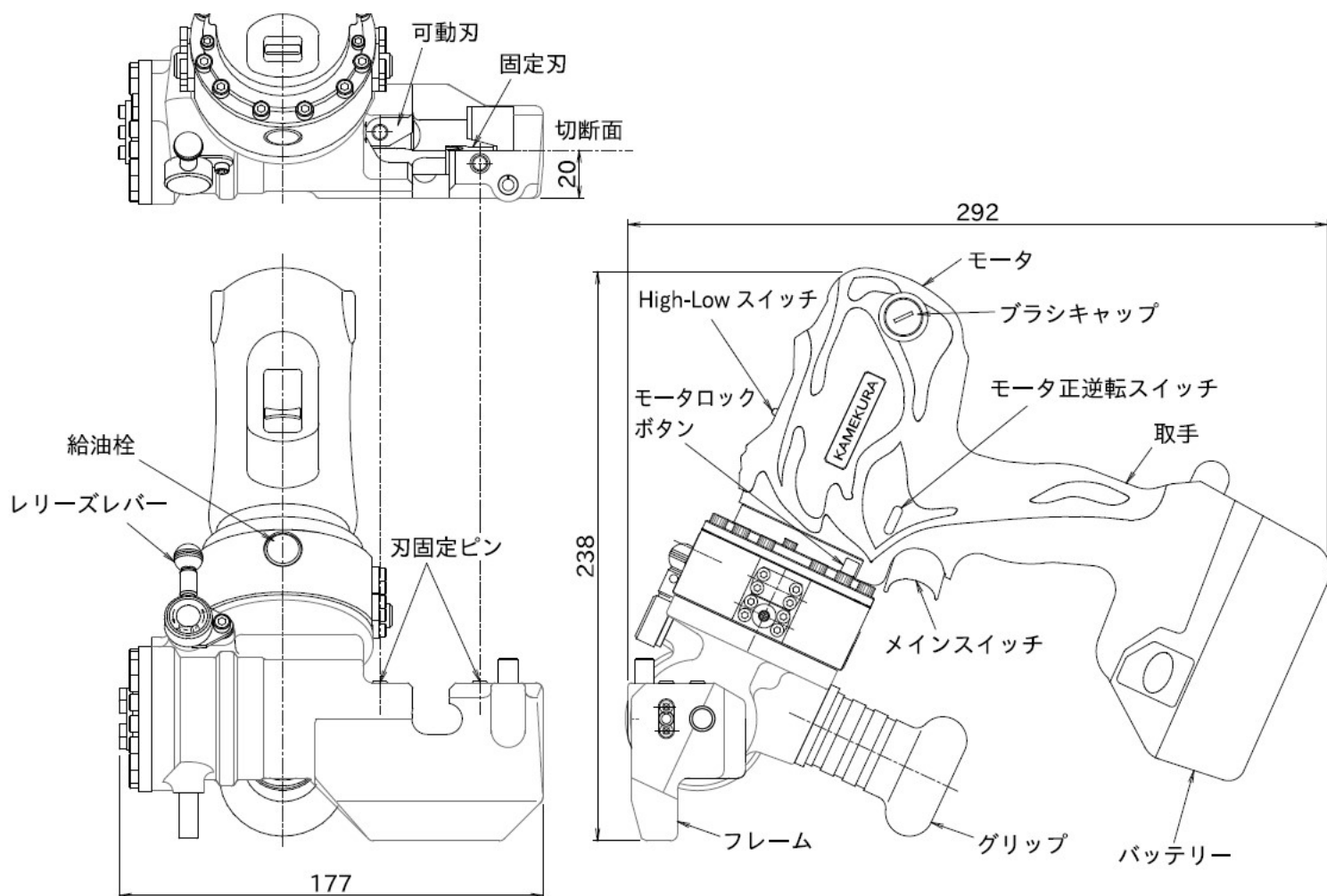
1. 電動工具の整備は、資格をもつ修理要員が純正交換部品だけを用いて行うものとし、これによって、電動工具の安全性を維持することができます。バッテリーパック、充電器、モータは分解しないで下さい。
2. バッテリーパックは火中に投入しないで下さい。又正規の回収ルートで廃棄下さい。

A. 仕様・装備

形式	DW-408B
モータ	DCマグネットモータ 定格18V
動作方式	電動油圧式 オートリターン マニュアル強制リターン機能付
切断時間	約4秒
最大出力	5.9kN (約6ton)
切断(材料) サイズ	W3/8、W1/2 M8、M10、M12 (軟鉄、ステンレス)
切断回数 (満充電)	W3/8 SS400 約800回 W1/2 SUS 約400回
本体質量	5.1kg
本体寸法	238 H×177W×292D 主要部寸法は図1参照

付属機能	替刃取り付け時工具不要。 (取外し時はプラスドライバーが必要)	
付属 バッテリー	型式、質量	BSL36A18 (HiKOKI) 0.7kg
	種類	リチウムイオン電池
	電圧、容量	D.C. 18V 5Ah (D.C. 36V 機器では2.5Ah)
付属充電器	HiKOKI 製 (型式・仕様は別紙充電器の取説を参照)	
その他 付属品	1) 替刃 W3/8 1セット (本体に取り付け) 2) 刃固定ピン 2個 (本体に取り付け) 3) プラスドライバー 1個	
替刃 (別売)	W3/8	品番 DW-3/8
	W1/2	品番 DW-1/2
	M8	品番 DW-M8
	M10	品番 DW-M10
	M12	品番 DW-M12

B. 各部の名称、寸法



図B

C. バッテリーの充電

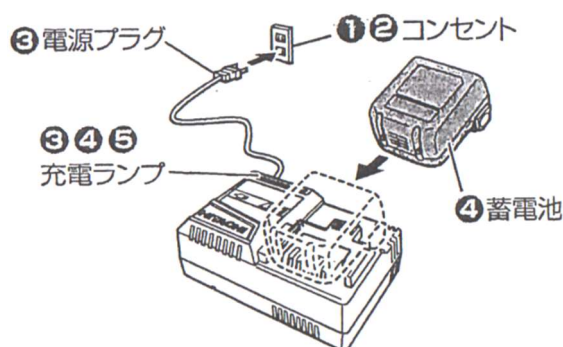
1. パンチャーよりバッテリーを取り外します。(図C-1)
2. 充電器の電源プラグをAC100V コンセントに差し込みます。
3. バッテリーを充電器にしっかりと突き当たるまで挿入します。(図C-2)
4. 充電を開始すると充電ランプが点灯します。充電ランプの色と点滅の間隔によって充電状態を知ることができます。
各ランプの表示内容、および充電時間は別紙充電器の取扱説明書を参照願います。
5. 充電が完了すると、充電ランプの色が変わりブザーが鳴ってお知らせします。
6. バッテリーを取り外しパンチャーに取り付けて下さい。



図C-1

⚠ 注意

- ・ 充電不可の場合は、バッテリーの取付け部またはバッテリーの端子部に異物が入っていないか確認し、異物があったら取除いてください。異物が入っていない場合は、充電器とバッテリーの両方を組にして、お買い求めの販売店にご持参ください。
- ・ 充電器は、次の充電まで5分程度休ませてください。
- ・ 使用した直後、バッテリーが熱い時は少し冷めてから充電します。
- ・ 切断力が弱くなってきたと感じたら、使うのをやめてバッテリーを充電します。
- ・ 正しい充電をしても、バッテリーの使用時間が著しく低下してきたときは、バッテリーの寿命がきたものです。新しいバッテリーと交換してください。

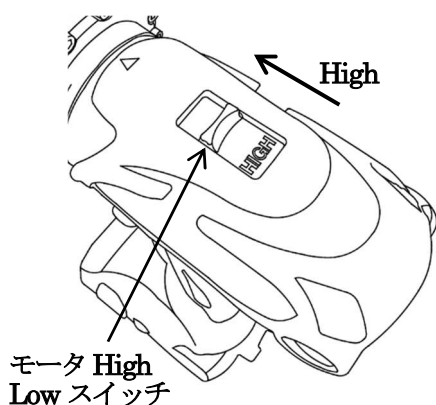


図C-2

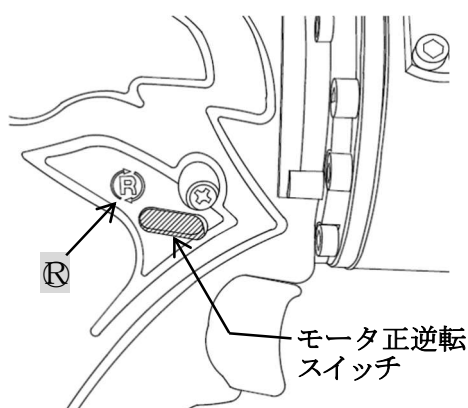
D. 使用方法

(1) 準備

1. モータのHigh、LowスイッチをHighで使用します。(図D-1)
2. モータの正逆転スイッチを正転、又は逆転にします。(R又はLマーク側を押し込む)(図D-2)
3. 切断する全ねじの呼びサイズに合った刃が、本体に取り付いているか、刃固定ピンが止まるまで差し込まれているか点検をして下さい。又、E-1項に述べる点検、確認を行って下さい。
4. 充電したバッテリーを取付けます。(C項参照)
5. レリーズレバーが閉位置にあることを確認します。(D項図D-4参照)



図D-1

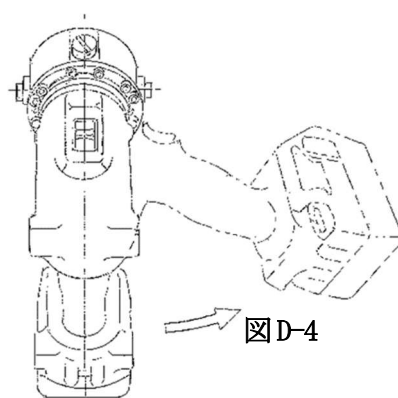


図D-2

6. 作業内容に応じ、モータ取手部の位置を左又は右約90°回転します。右または左のモータロックボタンを指で押してモータを回転させます。(図D-3、図D-4)
 (例：持って切断(図D-6)する場合で、全ねじの長さが長く左手が邪魔になる場合)



図D-3



図D-4

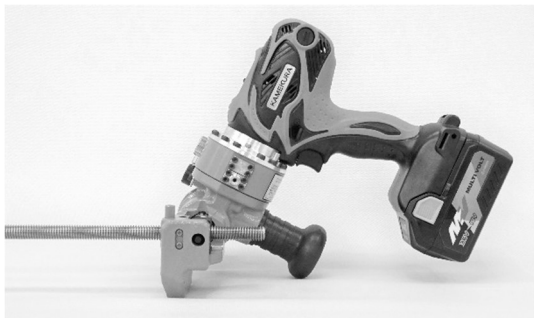
(2) 切断作業

1. 置いて切断(図D-5)、持って切断(図D-6)。

※刃固定ピンの近くに指等を入れて作業しないでください。(図D-7はNG)

※刃固定ピンを入れずに作業すると、替刃が破損する原因となります。必ず取り付けて作業してください。

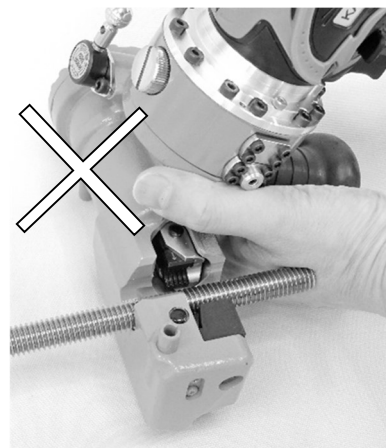
※刃固定ピン(低頭ロックピン)が奥まで入っていない場合、切断後の可動刃リターン時に指等が挟まれ、けがをする原因となります。



図D-5

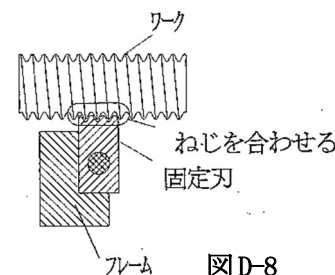


図D-6



図D-7 (NG)

2. 切断する全ねじを固定刃のねじに確実にあてがって下さい。(図D-8)
 3. メインスイッチを引き可動刃を前進させて全ねじを切断します。スイッチを引き続け、切断が完了し可動刃がリターンし始めたらスイッチを放してモータを停止します。
 ※続けて切断を行う場合は、可動刃が完全に戻り停止してから行って下さい。

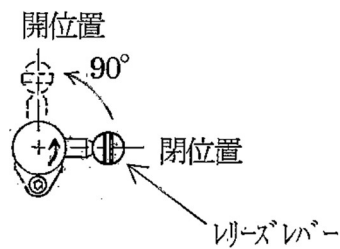


図D-8

◎ レリーズレバーの利用

可動刃をストローク途中よりスタート位置に戻す場合、又はワークが替刃に噛み込んで可動刃がオートリターンしない場合、レリーズレバーを開位置に回してスイッチを入れます。モータが廻ると可動刃(ピストン)が強制的に油圧でリターンします。レリーズレバー使用後は、必ず閉位置に戻しておいて下さい。(図D-9)


レリーズレバーを操作しても可動刃(ピストン)が戻らない場合は小さな金属片がピストンとフレームの隙間に噛み込んでいることがあります。その場合は可動刃を外して、ピストンの(可動刃がはまる部分の横にある)U形状ザグリの底を細い棒で少し強めに叩いてピストンを戻して下さい。(図E-5: 下側←部)



図D-9

E. 替刃の交換

※工場出荷時は本体に W3/8 の替刃（固定刃および可動刃）が装着されています。

 **注意** 替刃を交換する場合は、必ず正逆転スイッチを中間のロック位置にするかバッテリーを取り外して下さい。

1. 替刃の点検・確認

- (1) 切り刃部に欠けや変形等がある場合、全ねじの切り口にバリやねじ山の変形が発生してナットが入らなくなり、又切断機にも異状な負担となりますので、傷んだ替刃は使用しないで下さい。
- (2) 替刃は固定刃と可動刃を1対で使用します。
- (3) 全ねじ用替刃（図E-1参照）は切断面に呼びサイズが刻印されており又、上面となる面には色分けしたクボミがあり、更に可動刃には、可動方向を示す矢印がマーキングされています。又、可動刃には特許のV形切欠溝が切断面に設けてあります。

2. 替刃の取り外し

- (1) 替刃の固定方法は、可動刃、固定刃共、図E-3の断面図の様になっています。

(2) 可動刃を取り外す。

フレームにある刃固定ピン押し出し穴にプラスドライバーを差し込んで、可動刃を固定している刃固定ピン（低頭ロックピン）を抜き取り、可動刃を引き出します。（図E-2、図E-3）

※プラスドライバーは直径が4.5mm以下のロッドで代用可能です。

(3) 固定刃を取り外す。

フレームにある刃固定ピン押し出し穴にプラスドライバーを差し込んで、固定刃を固定している刃固定ピンを抜き取り、固定刃を引き出します。

（図E-4、図E-3）

- (4) ピストンが途中で止まった状態で外す場合はマイナスドライバーを刃固定ピン（低頭ロックピン）頭の段差に差し込んでひねって下さい。（図E-3）

3. 刃の取り付け


- (1) 固定刃と可動刃が必要な呼びサイズの刃であることを確認し、どちらかの刃を切断する全ネジに押し付けて外径・ピッチがあっているか確認します。ガタつくようならサイズが異なりますので全ネジのサイズを再確認してください。（特にM10とW3/8は外径・ピッチがほぼ同じため注意が必要です。）

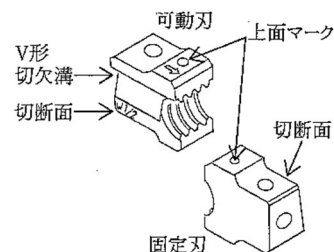
(2) 可動刃を取り付ける。（図E-5）

可動刃を本体（ピストン軸）の可動刃取付部に、図E-2の向きにして取外した時と逆の方向へ挿入し、ピストンの刃固定ピン穴に刃固定ピンを確実に止まるまで差し込みます。

(3) 固定刃を取り付ける。（図E-4）

固定刃を本体の固定刃取付部に、図E-3の向きにして、取外した時と逆方向へ挿入し、フレームの刃固定ピン穴に刃固定ピンを確実に止まるまで差し込みます。

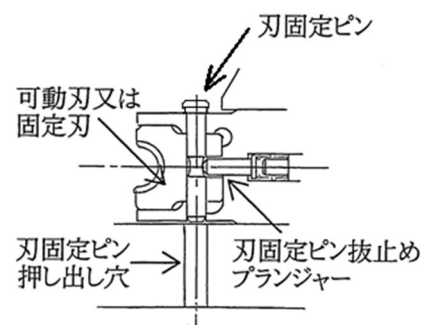
-  **注意**
- 1) 固定刃と可動刃が逆に入れ替った場合、刃固定ピンが取付できない様になっています。
 - 2) 刃固定ピンは可動刃用、固定刃用の区別なく共通です。



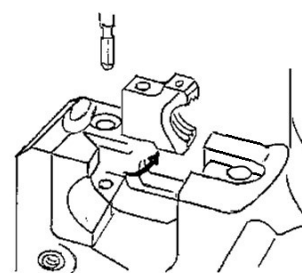
図E-1 替刃形状



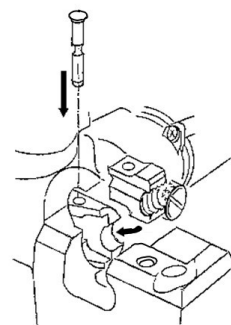
図E-2



図E-3



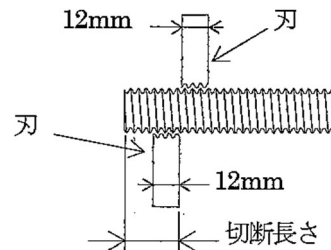
図E-4



図E-5

F. 使用上の注意

1. 替刃の損傷を避ける為、替刃の幅 (12mm) 以下の長さで切断をしないで下さい。(図F-1)
2. 切断したネジにナットが確実に入る様にする為、替刃のメネジはワークに対してスキマが極力少なくなっています。ワークのネジを替刃のメネジに対して正しく平行にあてがう必要があります。
3. 作業中は替刃の損傷あるいはその他の不具合に注意し、異常が認められた時は作業を中止し点検整備を行って下さい。
4. 力が弱くなってきたと感じたら使用を中止し、バッテリーを充電してから再度作業を行って下さい。 図F-1
切断の途中でモータが停止してしまった場合、材料を取り外せなくなる場合があります。この場合はバッテリーを充電した後作業を再開しその切断を終了させる必要があります。



◎ バッテリーの保護

1. バッテリー残量が少なくなると (18V 用端子間で約 15V) モータは停止します。この場合は速やかに充電して下さい。
2. 過負荷 (80A) になるとモータは停止します。過負荷の原因を取り除いて下さい。
3. バッテリーが加熱するとモータは停止します。この場合はバッテリーを冷却して下さい。

G. 保守・点検

◎ 作動オイル点検・補充について

本製品に使用の油圧作動油はコスモハイドロ HV10 相当品ですが、コードレス機は動作不良の発生時にオイルを足しても不良が解決することはありません。

給油栓を開けると内部に空気が入り動作不良になることがありますので給油栓は開けず、修理を依頼して下さい。

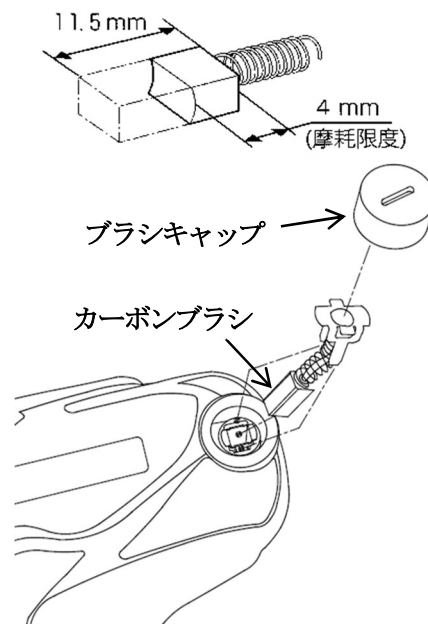
◎ カーボンブラシの交換等

1. カーボンブラシは定期的に点検し、長さが 4mm 以下になったら交換して下さい。(図F-2)
2. 交換はブラシキャップを取り外して行います。(図F-3)
3. バッテリーを単体で保管する場合は、短絡を防ぐため、電池カバーを取り付けて下さい。(図F-4)
バッテリーを収納ケース等に保管する場合は、ケース内に導電性のある切りくずや釘、針金や銅線等の線材を入れないでください。
4. バッテリーを保管するときは満充電にして保管して、6 ヶ月毎に補充電をして下さい。バッテリーの残量が少ない状態で長期間 (3 ヶ月以上) 保管するとバッテリーが劣化する恐れがあります。
5. 約3 ヶ月毎、または500回カット毎に、ピストン摺動部に高粘度油で油を差して下さい。
6. ピストン摺動部や可動刃にカスが溜まらないよう約1 ヶ月毎に清掃してください。

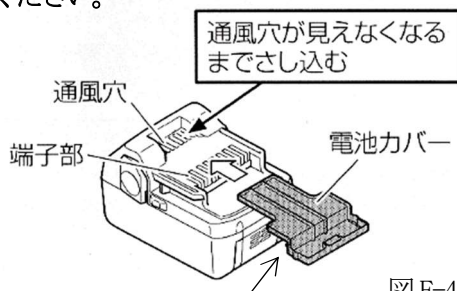
最も簡単で推奨の清掃方法はピストン摺動部と可動刃をエアブローで清掃し、カスを吹き飛ばすことです。(図F-5)

清掃に水や薬剤は使わないでください。

7. 塗装した全ねじを切断した場合は、作業終了後、または500回カット毎に替刃を外してワイヤブラシ等で塗装カスがある程度取れるまで清掃してください。



図F-3



図F-4

取扱説明書と共に付属されています。



図F-5